



## 樽水若竹同窓会会報

第 79 号

発行者：樽水若竹同窓会 事務局広報部

同窓会 本部・事務局

〒047-0001 小樽市若竹町9番1号

北海道小樽水産高等学校内

TEL. (0134) 25-0063

FAX. (0134) 23-4553

※年会費払込口座（郵便局）

02720-8-42603

樽水若竹同窓会

印刷所（株）ジェノア印刷

## 海技従事者育成と本校の役割



小樽水産高等学校  
校長 木村 司

樽水若竹同窓会の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本校の現状についてですが、3月に行われた入学選抜では4学科平均の出願時の倍率は1.3倍で、学科ごとでも1.0倍を下回るころはなく、全ての学科で定員を確保することができました。後志管内では出願後の状況で定員を確保していたのは潮陵高校と本校のみとなりました。中学生の生徒数が急激に減少する中、後志管内に限らず札幌を中心とした一部の都市部以外は、北海道全体の高校が同じような定員割れの状況にあります。そんな中、本校がこのように定員を確保できているのは、全道各地から生徒が集まっていることも要因の一つであると考えています。本年度、小樽市以外の地域からの入学生が48名（うち後志管内は26名）となっており、1クラス分以上が小樽市外からの入学生となっております。全道各地から入学生が本校を受験してくれるのも、同窓の皆様が各地域で長年にわたりご尽力いただいているおかげであるとあらためて、感謝申し上げます。

さて、昨年度、同じ小樽市内にある国立小樽

海上技術学校の存続問題が新聞等でも報道されました。その報道の中には、海上技術学校が本校と統合されるかのように受け取ることができるよう内容もあり、心配されている方もおられるかと思ひ、この場をお借りして、この問題について簡単に説明させていただきます。昨年9月13日付けの北海道新聞に「海上技術学校の校舎が老朽化により耐震化が困難である」との報道があり、その後、海上技術学校から本校に對して、本校校舎の一部使用も含めた様々な相談や提案がありました。また、海上技術学校の存続を求める小樽市との協議も行われたようで、その中で「本校との連携について検討している」といった旨の新聞報道もありました。これに對して、「協力できることは最大限するが、校舎の一部使用は物理的にも不可能である」と、道教委からも正式に海技教育機構（海上技術学校の上部組織）および小樽市に回答しています。現在、海上技術学校は、小樽市内の使用していない小中学校等の校舎を利用して存続できないかを小樽市と協議をしている状況であると同っています。いずれにしても、本道の産業には欠かすことのできない海運業界に有為な人材を供給することが、本校が担う大きな役割の一つであることは変わらないと考えています。

今後も明るく活気に溢れた学校で有り続けるために、こうした問題の情報収集も含め、自身のアンテナを高くし、「樽水丸」の針路を誤らずに順調な航海を続けていけるよう努めていく所存です。樽水若竹同窓会の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

平成30年度 事業計画 (案)

- 1、会員相互の親睦と会報のさらなる充実をはかる。
- 2、会費の納入促進及び母校の発展に寄与する。
- 3、支部との交流を深め組織の充実をはかる。

予定

4月10日・入学式 参列

佐藤彰副会長、宮下副本部長 出席

14日・第1回 執行部会開催

21日・春季役員会の開催

5月26日・平成30年度 支部長会議を

午後4時30分から開催

(ニュー三幸)

平成30年度 定時総会を

午後6時00分から開催

会報「わかたけ」79号刊行

8月18日・胆振支部総会 小樽市で開催

9月・第2回 執行部会開催

11月・秋季役員会

会報「わかたけ」80号刊行

3月・卒業式 会長祝辞

※各支部総会への出席

■高19期 (水産製造科) クラス会

去る平成29年10月16日、定山溪ビューホテルにおいて、1泊2日で高19期 (水産製造科) のクラス会を開催しました。

卒業して50年になりますが、高校時代の思い出話しや担任であった村林忠信先生の話で盛り上がり、夜遅くまで語り合いました。

来年もクラス会の開催を約束して解散となりました。

記 小樽市 木村 秀策



■忘年会

平成29年12月2日、小樽市山田町の海坊主(前田登・高31無線)で開催されました。出席者は、吉田整史(高25製造) 岩佐敦(高31栽培) 赤石孝司(高33無線) 嶋秀二(高36漁業) 川崎昭弘(高37栽培) 細越裕司(高39無線) 梶征一(高39栽培) の8名が参加されました。新聞、雑誌等に取り上げられていた行列の出来る「あんかけ焼きそば」の店、海坊主が塩谷から山田町に移転したこともあり、初の忘年会の開催となりました。年齢、学科は異なりますが、本校に対する愛情は皆さん同じであり、当時の懐かしい思い出を語り合いました。また、例年五月に開催される定期総会に一人でも多くの皆さんが参加される裾野を広げる会でもありました。結局、深夜まで続く忘年会でした。

記 岩佐 敦



■忘 年 会



高 31 忘年会

平成29年12月30日(高31)、羅臼から官代利孝(G)、片山基(G)が小樽に来られ、急遽忘年会を開催しました。伊藤尚宏(G)、長谷邦昭(G)、西田誠(G)、高川政彦(G)、津崎利雄(G)、岩佐敦(A)、佐々木信也(S)、寺田修(S)、小伊勢一洋(R)、前田登(R)の12名が参加しました。懐かしい話に華が咲き、特に住吉神社での相撲の札幌商業との決勝戦、伝説の一番として語り継がれる片山基VS札幌商業は九重部屋帰りの120キロの巨体を「うっちゃり」で破った話題など、話しは尽きることなく盛り上がりました。2年後の還暦の同窓会を企画することにしました。

記 岩佐 敦



第13回(高20期 製造科)クラス会

■第13回(高20期 製造科)クラス会

平成30年1月6日(土)午後5時30分より札幌市中央区南7西3ジャスマックプラザで、高20期製造科のクラス会を開催いたしました。ここ5年から6年は、毎年1月の初めに行い、出席6人、11人でした。久々に卒業以来の再会の方もいて、顔を合わせた時は、風貌もすっかり変わり、誰だかわからない時間もありましたが、2時間半の会話の中で、徐々に当時の面影があり、昔のわるい事をした想い出話で、話に花が咲き、盛り上がりました。来年は小樽で再会を誓い、別れを惜しみました。事務局の皆さんの今後益々のご奮闘とご健勝を祈念しお願いと致します。

記 小林(高20製)



第11回高31期漁業経営科入学のクラス会

■第11回高31期漁業経営科入学のクラス会

去る平成30年2月24日、小樽市において、第11回高31期漁業経営科入学のクラス会を開催しました。(在籍時、栽培漁業科に変更)

札幌市・杉本行広、礼文島・湯田博明、根室市・竹内護、猿払村・佐藤将幸、岩内町・山本勇一、函館市・西村輝英、神恵内村・山森淳、紋別市・畑野和彦、札幌市・手塚吉彦、小樽市・岩佐敦、漁業科から小樽市・津崎利夫、西田誠、無線科・小伊勢一洋、前田登、製造科・佐々木伸也、高野晴香(高59食品科) 齊藤萌(高61食品科)の17名が参加されました。

忙しい中、また遠方からの参加ですで大変だったことと思いますが、女性の参加もあり華のあるクラス会でした。無事終了出来たことに参加された皆さんに感謝いたします。2年後は還暦開催となり、30名規模の同窓会を予定しています。海での操業は大変危険ですので安全第一の操業に努め、元気で再会出来ることを楽しみにしています。

記 岩佐 敦

■ 本科卒業生・専攻科修了生の進路 ■

● 海洋漁業科

〈就職〉

- えりも漁業協同組合
  - 共和水産(株)
  - 酒井水産(株)
  - 新日本海フェリー(株)
  - 商船三井フェリー(株)
  - 津軽海峡フェリー(株)
  - 水産庁
  - 海上自衛隊
  - 北海道警察
  - 昭和日タンマリタイム(株)
  - 岩間工業(株)
  - 花冠商事(株)
  - 大同倉庫(株)
  - 田中酒造(株)
  - 北海道技研(株)
  - (株)コマツダ
  - (株)伊藤塗工部
  - (株)北海道モリタ
  - (株)北海道イエローハット
  - ワタキューセイモア(株)
- 〈進学〉
- 北翔大学
  - 北海道立札幌高等技術専門学院
  - 小樽水産高校・専攻科漁業科
  - 札幌ベルエポック美容専門学校
  - 専門学校北海道
  - リハビリテーション大学

● 水産食品科

〈就職〉

- 東洋水産(株)
  - (株)スギヨ
  - 東洋冷蔵(株)
  - 一正蒲鉾(株)
  - 和弘食品(株)
  - 井原水産(株)
  - ニチロ畜産(株)
  - 北海道エルム豊上(株)
  - さくら食品(株)
  - OcciGabi Winery
  - オーセントホテルズ(株)
  - (株)温泉宏菜園
  - (株)丹波屋
  - ワタキューセイモア(株)
  - (同) 小樽カナルポート
- 〈進学〉
- 経専調理製菓専門学校
  - 大原法律公務員専門学校
  - 札幌スイーツ&カフェ専門学校
  - 札幌医療秘書福祉専門学校
  - 札幌こども専門学校
  - 北海道ファッション専門学校
  - 札幌ベルエポック美容専門学校

● 栽培漁業科

〈就職〉

- (株)北一硝子
  - ノーザンオートサービス(株)
  - (株)デリカ
  - (株)光合金製作所
  - 昭和製器(株)
  - (株)新倉屋
  - (株)深川硝子工芸
  - トップワーク(株)
  - (株)北海道ニッカサービス
  - 新日本海フェリー(株)
  - 東洋冷蔵(株)
  - (株)エムデジ
  - 大ワ大和水産(株)
  - 伊藤ハムデイリー(株)
  - (株)シズナイロゴス
  - ワタキューセイモア(株)
  - 北海道マツダ販売(株)
  - 北海道旅客鉄道(株)
  - 日清丸紅飼料(株)
  - (同) 西友
  - タイムズモビリティ
  - ネットワークス(株)
  - (株)キダ
  - ビューティーサロン
  - ハートオブゴールド
- 〈進学〉
- 日本獣医生命科学大学
  - 札幌大学
  - 札幌科学技術専門学校
  - 吉田学園医療歯科専門学校
  - 専門学校札幌ビジュアルアート
  - 経専北海道保育専門学校
  - 札幌スクールオブミュージック & ダンス専門学校

● 情報通信科

〈就職〉

- 日本無線(株)
  - 北海道電気工事(株)
  - (株)ネクスコ東日本エンジニアリング
  - つうけんアクティブ
  - 開発電子技術(株)
  - (株)ディックソリユーション
  - エンジニアリング
  - (株)神戸製鋼所
  - (株)八洲機電
  - 富士スチールワーク(株)
  - 道央エンジニアリング(株)
  - 北海道マツダ販売(株)
  - 余市商工会議所
  - トップワーク(株)
  - 新日本海フェリー(株)
  - 野口病院
  - (株)余市自動車工業
  - 大ワ大和水産(株)
  - (株)杉本運輸
- 〈進学〉
- 北海道科学大学
  - 北海道情報大学
  - 小樽水産高校・専攻科情報通信科
  - 大原法律公務員専門学校
  - 日本航空専門学校
  - 吉田学園医療歯科専門学校
  - 北海道スポーツ専門学校
  - NILS
  - 札幌ブライダル
  - &ホテル観光専門学校
  - 専門学校北海道
  - リハビリテーション大学

● 専攻科 漁業科

〈就職〉

- 漁業後継
- 北海道教育庁渡島教育局実習船
- 川近シブマネジメント(株)
- イイノガストラランスポート(株)
- (株)デユカム
- 共栄運輸(株)

● 専攻科 情報通信科

〈就職〉

- 宇宙技術開発(株)
- 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)
- CTCシステムマネジメント(株)
- 警察庁 北海道警察情報通信部
- 警察庁 東京都警察情報通信部
- 国土交通省
- 航空局(航空管制技術官)

## ■母校の進路概況

平成30年3月卒業生の進路希望は、就職希望者97名、進学希望者42名でした。1月末現在の進路状況は、就職内定率が99%、進学決定率が100%という結果です。地域別就職内定者数は、管内47名、道内34名、道外15名となっており、地元志向が変わらず続いている状況です。

平成30年3月新規高等学校卒業予定者の平成29年12月末現在の道内有効求人倍率が、2.29倍と過去最高値を記録しました。(北海道労働局調べ)今年度の本校生徒の就職活動内容については、良い条件に恵まれたこともあり、昨年以上に好調な動きで就職活動をスタートさせることができました。また、早期に採用内定するケースも増加しており、本校の平成29年10月末現在の内定率は、79%と過去最高となり、昨年同時期に比べると10ポイントも上回っていました。その要因として、企業側の採用計画の早期化による、7月求人票受付時点での求人数及び求人企業数の増加傾向が見られました。そのような影響もあり、今年度の生徒の動向については、受験したい企業の選定が早く、応募前職場見学への参加が徹底され、採用内定を決めたいという意志も強く感じられる生徒が多いため、良い結果に繋がったのではないかと思います。

別表を参照していただければ分かると思いますが、水産海洋系だけでなく、地域にも十分貢献できるような進路先に決定してくれたと思います。また、それぞれの企業先には、本校の先輩達も多く活躍されています。これから企業に入社していく卒業生は、しっかりと先輩の背中を見て、立派な社会人として育っていつてくれることを期待しています。

一方、進学者について2月末現在、大学6名、専門学校29名、専攻科7名という結果でした。進学する生徒については、将来の夢に少しでも近づいたため、専門性の高い学問や知識を身につけるよう、しっかりと

り目標に向かって努力しなければなりません。将来的には、就職することになりますので、水産高校という特色ある職業高校で学んだ事は、今後有利に働くのではないかと思います。

求人状況等については、引き続き好調であることをお願いするところではあります。しかし、景気の上向きや人口減少による労働力不足のため、就職が売り手市場となっているという観点もあります。ブル経済の崩壊やリーマンショックなどによる景気後退の影響を受け、雇用情勢が悪化した時代を忘れてはいけなさと感じています。在校生については、この先の進路についてどんな情勢になっても希望先の内定を勝ち取れるような心構えをしてもらいたいと思います。

進学については、本校でも過去に水産系の国公立大学への進学をしている生徒も少なくありません。早い段階で目標設定し、その進学に向けて学習することによって十分可能性はあると思います。今後も、上級学校への進学を目指していただくことを期待しています。

最後に、保護者の皆様におかれましては、ぜひ様々な機会でも「将来(進路)」の話をしていただき、今後とも本校の進路指導に対して変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

進路指導部長 村上 武(高46漁)

## ■平成30年度函館支部定期総会及び懇親会

函館支部定期総会が平成30年1月13日(土)、函館市湯の浜ホテルで開催されました。

出席された函館支部の方は、清水貞行(高4製)、西山忠義(専2漁)、黒石寿(専7漁)、早坂義幸(専7漁)、松代真佳(専19漁)、秋田谷英志(専44漁)、武安宏行(専40漁)、佐藤誠(専27無)、小松崎節雄(高39漁)、伊藤正光(専32漁)、松本和也(専48漁)、本間航太(専44無)、佐々木健太(専52漁)、米田昌

平(専57漁)、木津谷昌平(専57漁)、岩佐克矢(高62無)の16名です。

総会に入る前、昨年度お亡くなりになられた若竹同窓会会員様へ、函館支部会員一同で黙祷を行いました。改めてここに、ご逝去を慎み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、会員一同心からご冥福をお祈り致します。

続いて、2017年度の事業報告と決算報告及び2018年度の事業計画と予算案並びに役員改選について事務局より説明し、質疑応答の後それぞれ満場一致により承認されました。

(役員の会計監事として本間航太さんが選任、その他職場幹事等が変更となりました)又、今後の函館支部会員の体制と組織強化等について、出席者と意見交換を行い、共通認識を図りました。

総会終了後の懇親会では、宮下樽水若竹同窓会副本部長及び井ヶ田函水北風会会長を迎え、同窓生の旧交を温め親睦を深めました。懇親会の中で秋田谷英志さんは「久しぶりの同窓生にお会いし、海運や船舶関係の話が出来て楽しかった。今後も皆さんと会おうのを楽しみに日々の仕事頑張ります。来年も来ますよ!」話しておりました。

懇親会の最後には、校歌を参加者全員で歌い、世代を超えた同窓生の気持ちが一つとなり、次回も出席の皆様方が元気な姿で会える事を約束して終了致しました。

最後に武安事務局長より、「本日は寒い中、お越しいただきまして、誠にありがとうございます。本年は新しい会員も加わり親睦を深める事が出来ました。本年の函館は雪が多く、これからの冬本番であります。東日本大震災から今年で7年目、被災されました同窓生の皆様には心よりお見舞い申し上げます。私たちの中には大きな困難に直面した時、仲間が助け合うこと、励ましあうことの大切さを認識している。つながりこそご人を支える根幹で、今後も世代を超えた同窓生として「絆」を深めて「縁」を

大切にしたい。今後も同窓生との親睦を図るべく、尚一層のご助言をお願い致します。」と述べられ懇親会を終了しました。

本部より出席されました宮下副本部長、お忙しい中お越し頂きまして誠にありがとうございました。

記 (事務局長 武安 宏行)



■「寄稿」  
国分寺サイトーボクシングジム

齊藤 寛 (高6漁)

平成29年12月4日(日)に「天皇杯第65回全日本相撲選手権大会」が東京両国国技館で行われました。その試合で中央大学の矢後太規選手(法4)がわずか4秒の取り組みで勝利、優勝しました。本学学生としては何と26年振りの「アマチュア横綱」の誕生です。

去る2月3日、中大はこの矢後選手が「幕下15枚目付け出し」資格を得て尾車部屋へ入門することを発表しました。尾車親方は元大関・琴風です。矢後選手は北海道・芽室町出身で、身長は186cm体重170kgの体格です。



「矢後太規選手の祝勝パーティー」  
中大お茶の水記念館にて

■人物紹介

高29経営の金子敏幸さんを紹介します。卒業を目の前にして、3学年の10月に学校を辞めています。何故と思われると思います。金子さんは島牧出身で、漁業後継者として漁業経営科に入学、同じく白樺寮に入寮。その後、桜町に下宿していたようですが、父が病に倒れ仕送りも滞り退学の道を選択しました。しかし、樽水精神から、平成7年に「ハピレ株式会社」を立ち上げ代表取締役として認知症グループホームの経営、更には小樽福祉アカデミーの講師として介護職員初任者研修の開催、また日本認知症グループホーム協会北海道支部の副支部長として、北海道は勿論、全国で活躍されています。

記 岩佐 敦

■平成29年度 物故者

事務局に連絡のありました、ご逝去の方々をお知らせいたします。

平成29年

- 5月23日 中村 俊幸 氏 (高21漁) 羽幌町
  - 6月7日 松井 敏行 氏 (高28製) 小樽市
  - 6月30日 半田 雄一 氏 (高3製) 小樽市
  - 8月28日 奥野 譲 氏 (高5漁) 釧路市
  - 10月28日 藤田 毅三 氏 (高6増) 枝幸町
  - 11月10日 石崎 一 氏 (高4漁) 斜里町
  - 12月5日 浜林 啓治 氏 (高20増) 小樽市
- 平成30年
- 3月21日 富塚 恭馬 氏 (高68海) 札幌市
  - 4月4日 吉田 修 氏 (高18製) 小樽市

■編集後記

樽水若竹同窓会会報「わかたけ」は会員の皆さんからの投稿や情報により編集されています。クラス会の記録や同窓生の活躍などがありましたら、事務局に寄せていただくことをお願いいたします。

なお、発行の費用になる会費の納入については、それぞれの支部か直接本部まで振り込みをお願いします。振込先は表紙に掲示しています。

振込用紙の必要な方は、事務局まで連絡をお願いします。